

令和元年度第1回 高松市立病院を良くする会 会議録

開催日時：令和元年7月24日（水）13時～15時

場 所：高松市立みんなの病院 みんなのホール

【出席者】

(委員) 会長 谷田 一久 (株式会社ホスピタルマネジメント研究所 代表)

副会長 神内 仁 (一般社団法人高松市医師会 会長)

安藤 幸代 (公益社団法人香川県看護協会 会長)

二島 多恵 (公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表)

吉田 静子 (高松市婦人団体連絡協議会 副会長)

和田 頼知 (和田公認会計士事務所 公認会計士)

(事務局) 市職員 25名

(傍聴者) 7名

開会 13:00～

1 病院事業管理者挨拶

本会は、平成23年度より、医療の質の透明性及び効率性の向上、並びに病院事業の経営健全化を語り、市民を支え、市民のための病院の実現に資することを目的に結成され、様々な御意見をいただいていた。状況は時代とともに刻々と変わっており、我々の病院事業も昨年9月の開院を機に大きく変化している。市立病院が2つになったこと、また、みんなの病院は、旧市民病院の延長の病院ではなく、新たな病院として、仏生山地区でいかに地域に密着した医療を提供できるかが重要となっている。是非その点について貴重な御意見を賜りたい。

また、塩江分院について、地域唯一の病院として、医療体制の充実を図り、ニーズに応えようとしてきたが、塩江地区の急速な人口減、超高齢化地区となること、また、地域的特性を踏まえ、今後は、みんなの病院と一体となり、協力して医療提供する方針である。数年先には、みんなの病院のサテライト外来として運用予定であり、みんなの病院が、塩江地区も仏生山地区と同様の医療を提供していく考えである。本日は、文字通り、どうすれば病院が良くなるか、議論していただき、改善点等あれば忌憚ない御意見をいただきたい。

2 議題

(1) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況（平成30年度実績）について

(ア) 高松市立みんなの病院

高松市立みんなの病院院長 説明

(資料：昨年度の自己評価と今年度の目標)

(会長)

資金収支について、30年度は、旧病院の実績を含んでいるということだが、新病院移転後1年間の見込みはどうか。

(みんなの病院院長)

新病院移転後、順調に収入は増えているが、費用も拡大しており、依然厳しい状況である。

(委員)

みんなの病院は、がん診療の強化を目標に掲げているが、がんでも呼吸器系、消化器系と多岐に渡るが、がん治療での特色となるものはあるのか。

(みんなの病院院長)

症例として、多いのは呼吸器、消化器、婦人科系だが、特定のがんに特化するのではなく、全てのがんに注力している。

(委員)

多岐に渡るがん治療が理想ではあるが、みんなの病院の売りとなるがん治療ができればさらに良くなるのではないか。

(みんなの病院院長)

がん患者数確保には、紹介による患者の獲得が不可欠となるため、PET-CTなどの医療機器等、地域の先生方に再度アピールし、診断から治療まで対応したい。

(会長)

昨年、兵庫県立がんセンターの在り方検討委員会において、進行の進んだがん患者に対しての社会的アプローチを公立病院が主導してやるべきではないかという議論がされた。進行の進んだがんに関しては、依然生存率が低いままだが、そういった状況の中、高度医療機関は何をすべきか、在宅、相談機能、地域サービスと連携しながら穏やかに過ごしていただく環境作りに第一歩を進めたらどうかという議論がされた。みんなの病院においても社会的なアプローチに目を向けてみてはどうか。がん患者が日常的に必要なとすることを探る等すれば、何か糸口が見つかるのではないか。

(みんなの病院院長)

がん診療支援センターを設立し、セカンドオピニオン外来、緩和ケアセンターなど運用しているが、さらに注力していきたい。

(会長)

がん拠点病院になると、標準治療が義務化され、社会学的アプローチを行うにあたり足枷になる場合もある。慎重に検討し、みんなの病院は、懐の深い診療で、市民に広く受け入れられる病院になられることを期待している。

(委員)

新病院になり、順調に患者数が増加しているのが分かる。救急車の受入れが、約300台/月となり、スタッフの負担が増えていることが懸念されるが、スタッフのモチベーションはどうか。

(みんなの病院副院長)

医師間の協力体制が確立し、精神的不満は減っている。また、当直の翌日は、午前で帰ることを徹底し、精神的、体力的にもストレスを感じないような環境作りを意識している。また、毎朝、当直医と看護師を交えてカンファレンスを行い、改善につなげていくようにしている。

(委員)

PET-CTの稼働率はどのくらいなのか。

(みんなの病院院長)

まだ低い状況である。8月から健診でも活用予定であり、稼働率向上につなげたい。

(委員)

地域医療支援病院の施設基準を取得し、診療報酬上のメリットがあったと思うが、次に何か診療報酬上メリットとなる施設基準を取得する場合、認定看護師等、人材育成が重要となると思うが。人材育成の具体的な目標はたてているのか。

(みんなの病院看護局長)

認定看護師について、排泄ケアの分野での資格取得は数年前からの課題となっていたが、ようやく受験者が決定し、受験に向けて勉強しているところである。また現在、慢性呼吸器疾患の認定看護師が、心拍外来を月2回行い、産婦人科においては、助産師を増員し、助産師外来に注力している。

(みんなの病院院長)

人材育成の中には、今後、みんなの病院が生き残っていくために、スキルはもちろんのこと、待遇、全人的なスタッフを養成していくことが重要と捉え、強化していく方針である。

(委員)

みんなの病院に入院した知り合いから、病院側から十分な説明がなかったという話を聞いた。新たな患者の獲得には、口コミが大切である。評判がいい病院であってほしいので、接遇の向上はもとより、親切かつ丁寧な説明を心がけてほしい。

(みんなの病院院長)

前病院と同様のことをせず、我々職員は変化をしていかなければならない。そのためには、人材育成や接遇の面をしっかりと取り組んでいきたい。

(会長)

以前、坂出市立病院で実施したアンケート調査の病院選定の理由に、親切に説明してくれるからという回答が多かった。接遇も大事だが、親切に説明することは医療者の基本ではないか。是非、そこを軸にしてみてもどうか。また、病診連携の中で、退院患者のその後に配慮してはどうか。みんなの病院として心機一転するのであれば、その辺の見直しもされてみてはどうか。患者のその後を気に掛ける病院という医療の進め方もあるのではないかな。

(みんなの病院看護局長)

現在、当日入院、当日手術、当日退院の患者に対しては、翌日病状確認の連絡を取るよう徹底している。外来については、受診予定にも関わらず、受診されなかった患者にも確認の連絡をしている。病診連携という意味で、こういった取組をもう少し広げていきたい。

(会長)

例えば、化学療法中、家で苦しい思いをしている時に、1本の電話でもあれば、ずいぶんと違い、療養意欲も湧くのではないかな。収益を上げるためには、医療のやり方を変えるべきである。変わるのであれば、そのくらい他院の先に行くべきであり、そうすれば他病院との差別化にもなるのではないかな。

(委員)

差別化の要因にもなりうると思うが、地域連携支援病院の承認の要件である、紹介率、逆紹介率も余裕のある数字ではないことから、もう少し開業医から紹介をしてもらいやすい体制を構築すべきである。県立病院では、開業医と同じ時間帯で地域連携室も稼働し、連携を取っている。土曜日に関しても対応していくという議論がされている。みんなの病院においても、特に前方連携でしっかりと対応していくべきではないかな。

(委員)

土曜日に診療科を開けることは難しいと思うが、地域連携の担当部署が対応してくれれば、予約だけでもスムーズに取ることができ、患者さんの安心材料になるのではないかな。

(みんなの病院院長)

現在、地域医療連携推進委員会において、FAX 予約を開業医の稼働時間と同時刻の6時までに対応するようにしている。開業医と同時間帯で運用するのが理想であるため、土曜日の運用も前向きに検討したい。

(イ) 高松市民病院塩江分院

塩江分院院長 説明

(資料：経営健全化計画の具体的取組状況 平成30年度実績と令和元年度目標)

(委員)

公立病院としての役割の中で、5疾病5事業の中の僻地という、まさに政策医療として国が取り組むべきことに挙げていることを行っているのが塩江分院だと思う。住民が少ない超高齢化地域、守備範囲が広い中での医療の展開という意味で、非常に重要な事業となる僻地医療に関しての考えを聞きたい。

(塩江分院院長)

塩江分院は、ある程度病状が安定している慢性期の患者の長期療養を目的とした医療措置などのサービスを提供する療養型の病院であるが、現在、国は療養病床の廃止を進めている中で、療養型の当院がおかれている状況は非常に厳しくなっている。

また、訪問診療や往診を行うとしても、交通条件や自然条件に恵まれていない山間地である塩江地区では、非常に効率が悪いほか、家庭の事情などによる老々介護の問題も、医療現場の課題となっている。

(委員)

僻地医療と地域包括ケアシステムが合わさった環境となっているのが塩江分院である。塩江分院は、県庁所在地の市の公立病院であり、是非、県内の僻地医療をリードするような病院になってもらいたい。医療資源が集中している市内の医療機関と協力体制を整え、在宅機能や機動力のある僻地医療を展開していかれてはどうか。

また、医療体制の確保が困難な僻地において、遠隔地の医師から指示を受け在宅看護を実践するオリーブナースの進捗状況はどうなっているのか。

(委員)

オリーブナースについては、意欲ある人材育成の確保がストップしている状況にある。現在、厚労省により、特定行為のできるナースの育成を進めているところである。

(塩江分院院長)

分院の特徴としては、社会福祉協議会が敷地内に隣接しており、そこに当院の訪問看護ステーションも入り、常に、ケアマネージャーと交流し、顔の見える関係を構築できている。さらに発展させるために、訪問看護ステーションの人数の充実、塩江社会福祉協議会以外のケアマネージャーとの交流の構築が必要であると考えている。

(委員)

毎日一人、看護師をみんなの病院へ派遣しているとのことだが、人員的には、1人を6か月の研修に出せるのではないか。

(塩江分院院長)

前向きに検討していきたい。

(委員)

附属医療施設整備の計画では、入院機能がなくなるということだが、今後、同様のことが、日本中の僻地で行われていくと予想され、非常に大きな変換が求められている。訪問しなくてもいい遠隔診療の方法を考えるなど、医師も患者さんも地域の人も満足できる新しい仕組みを構築し、塩江から発信してもらいたい。塩江だったらできる、塩江に住んでいてよかったと思われるようなものがあつたらいいのではないか。

(塩江分院院長)

他の地域の取組も参考にしながら、当院でも検討していきたい。

(2) 平成30年度 高松市病院事業決算概要について

経営企画課 説明

(資料：平成30年度 高松市病院事業決算概要について)

(委員)

減価償却費の額が少ないようだが。

(経営企画課)

高松市病院事業会計規則に則り、固定資産の減価償却は取得の翌年度から行うため、平成30年度決算においては、新病院に係る建物などの減価償却費は反映されていない。

(会長)

新病院移転後の損益分岐点の売上高は出しているのか。現実的な数字の目標は立てているのか。

(経営企画課)

今年度の目標として、資金収支の均衡を掲げている。そのために必要となる入院患者数230人/日、外来患者数408人/日を目標としている。

(会長)

経営状況が厳しいという意見があるが、資金収支が均衡するポイントはどこなのか、現実味があるかどうか、見える未来を示していけば、前向きに次のステップに行けるのではないか。

(委員)

新病院になり、待ち時間の長時間化が問題となっているが、病院として何か対策は立てたのか。待ち時間を楽しく感じさせる工夫を早急に検討し、実行されたい。

(会長)

以前、良い病院のアンケート結果に、待ち時間が長い病院と回答された方が多くいた。良い病院であれば、待ち時間が苦でなくなるのかもしれない。是非、改善に向けて検討し、さらに良くなるように繋げられたい。

以上で、令和元年度第1回高松市立病院を良くする会を閉会する。

閉会 15:00